

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	増田 有貴	学校名	新潟県村上市立荒川中学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	1 学年（72名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年9月 ～ 2021年2月		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間、道徳		
2. 単元名：「地域から発信！SDGsの視点で、グローバルな生き方を学ぼう ～持続可能でレジリエントな社会を目指すには？～」		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標  授業テーマ：「持続可能でレジリエントな社会を考える」  単元目標 (1) SDGsの学習を通して、諸外国と日本、さらには自分とのつながりを実感し、地域や世界についての課題意識をもつ。（知識及び技能） (2) 様々な課題解決の事例やインタビュー等から、持続可能でレジリエントな社会のあり方を考え、それを自分の言葉で表現することを通し、他者に働きかけるための発信力を高める。（思考力、判断力、表現力） (3) SDGsやレジリエンスの学びを自らの行動に活かしたり、自分ができる社会貢献について考えたりする。（学びに向かう力）  関連する学習指導要領上の目標： ●横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。（総合的な学習の時間） ●[国際理解、国際貢献]世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。（道徳）		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	● 国際協力の学習、新潟巡検を通して学んだ知識やその意義等について、SDGsを視点として自分の言葉でまとめることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	● 様々な課題解決の事例やインタビュー等から、持続可能でレジリエントな社会のあり方を考え、それを自分の言葉で表現することを通し、他者に働きかける発信ができる。
	③学びに向かう力、人間性等	● SDGs やレジリエンスの学びを自らの行動に活かしたり、自分ができる社会貢献について考えたりしている。 ● 追及したい分野について、積極的に他者とコミュニケーションを取ったり、調べたりして深めようとしている。 ● レポートやプレゼン作成の過程で、何度も推敲しながら論理的で相手に伝わるような発信を目指している。

<p><b>5. 単元設定の理由・単元の意義</b> (児童／生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b> 2020年は世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、未曾有の経済危機に瀕した。近年は自然災害も頻発している。VUCAの時代といわれている今、SDGsの達成を現実的にするには、「これからありうる社会」を想定し、対応していく必要がある。そこで「持続可能性」と「レジリエンス」を総合的な学習の時間の視点の核とし、単元のテーマを「新潟から発信！SDGsの視点で、グローバルな生き方を学ぼう～持続可能でレジリエントな社会を目指すには？～」と設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b> 本単元では、震災被災者の想いや国際協力の学び、県内でSDGsに取り組む方々へのインタビュー活動を通し、生徒自信が「持続可能でレジリエンスな社会づくりに大切なことは？」という問いに5ヶ月間向き合う。中学1年生にとって難しい問いであると予想されるが、正解のない間にと共に生きる逞しさ、しなやかさを育みたい。また、インタビュー活動では大人と交流する場面がある。そのような経験も踏まえた本単元での学びが探究活動の土台となり、2年目、3年目は生徒自身で自走できるようになってほしいと願う。そのために視点や視座を高め、多様な他者とコミュニケーションをとりながら学びを深め、他者に働きかける発信力を高めるための1年としたい。以上のことをふまえた単元デザインとした。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b> 1学年の生徒数は72名。小学校の総合的な学習の時間では、地域資源や水害の歴史、環境に関する地域学習、発信活動の経験がある。生徒は1学期から総合的な学習の時間にとっても意欲的に参加し、学びを深めている。6月にSDGsを導入した際は、自主学習ノートに調べた内容をまとめた生徒が複数いるほど、世界の問題に関心が高い。一方で、学びを自分の言葉で言語化したり論理立てて記述したりすることが苦手な生徒が多い。そのため、本単元ではアウトプットの場を段階的に設定し、生徒の発信力を高めることに重きを置くこととした。また、他者に発信し意見交流をする中で自身の考えを整理・再考させるねらいがある。</p> <p><b>【指導観】</b> 前半は「レジリエンス」に繋がる概念を道徳の授業で導入した上で、国際協力の事例からイメージを掴み、地域資源との関連を考えながら自分の足元へと視点を移していく。単元のメインであるオンライン新潟巡検では、班の探求テーマをもとに県内で活動する方々にインタビューをすることで、身近な取組が広い世界の課題解決に繋がることを学ぶ。最後にアウトプットを通して、学びを整理し、他者へ働きかけるプレゼンを行う。1年間の学びの軌跡を生徒が確認できるよう、学年の廊下の掲示物は全て総合関係とした。また、ワークシートの記述から見える生徒の変容等を丁寧に見取り、一人ひとりにコメントを返すことで誰一人取り残さない授業を心がけた。</p>
-----------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

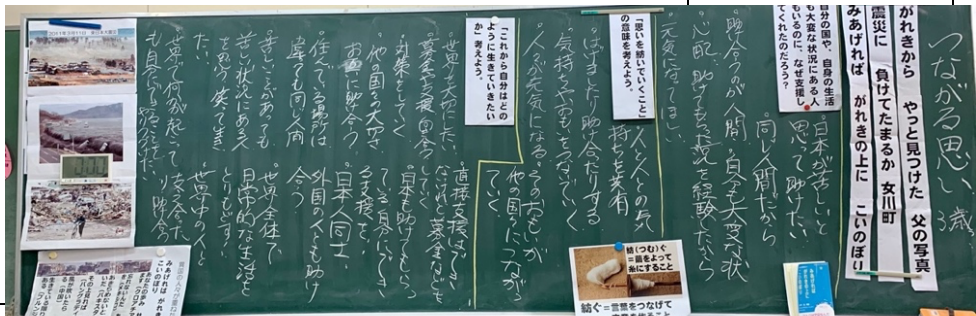
6. 単元計画 (全 26 時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 学期 【総合時間】	(1) SDGs を視点に、2030 年の世界と地域を考える。 (2) 中学生にできる地域貢献×SDGs を考える。 (3) SDGs を視点に、地域の課題を見直す。(外部連携) (4) 地域貢献活動に参加する (地域の特産品であるラベンダー園の整備作業)。			(1)～(4)の学びをレポートにまとめる
1 本時①	【道徳】 つながる想 い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東日本大震災の被災者に思いを馳せることで、普段の日常が当たり前ではないこと、予測のつかない事態が起こりうる世界に生きていることに向き合う。</li> <li>● 国籍や住んでいる場所など関係なく、お互いに助け合うことの大切さに気づき、他者貢献・国際貢献をしようとする意欲をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 写真をもとに東日本大震災の被害状況を振り返り、俳句を読んだ女川中学校の生徒の心情に思いを馳せる。</li> <li>● 震災後の世界中からの支援を知り、相互支援の在り方を考える。(パラグアイからの豆腐 100 万丁プロジェクト)</li> <li>● 全国各地、そして世界の国々から俳句の下の句を紡ぐ取り組みが行われたことを知り、この「想いを紡ぐ取組」がどのような結果をもたらしたか、考える。</li> <li>● 自然災害や新型コロナウイルス感染症などの諸問題がこれからも世界中で起こりうる状況の中で、「これから自分はどうのように生きていきたいか」考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『みあげれば がれきの上に こいのぼり』山中勉(日本宇宙フォーラム)</li> <li>● 2019年教師海外研修で撮影したパラグアイのラパス日本人学校での授業写真</li> <li>● 2019年教師海外研修参加の鈴木航太先生と玉腰朱里先生からのメッセージ</li> </ul>

2	【総合学習】 レジリエントな社会を考えよう	● 現在、不確実な時代を生きていることを認識するとともに、国際協力の事例から、レジリエントな社会づくりに大切なことについて考えをもつ。	● 昨今のグローバルイシュー、COVID19、地域の課題等がある中で、SDGs 達成のためには「ありうる社会」にも対応していく必要があることを押さえ、そのために「持続可能で竹のように強くしなやかな社会（レジリエントな社会）」を目指していくことを確認する。 ● 丸森町とザンビアの草の根技術協力を事例として、「竹のように強くしなやかな社会（レジリエントな社会）に大切なこと」についてグループで考え、画用紙にまとめる。ワールドカフェ方式で共有する。	● 丸森町とザンビアの草の根技術協力に関する写真、新聞記事、当事者の声
3	【総合学習】 地域の魅力や強みから、レジリエントな社会を考えよう	● 地域資源を理解し、レジリエントな社会にどのように繋がるか、考えをもつ。	● グループごとに、レジリエントな社会作りにつながる地域の強みや魅力（地域資源）を書き出す。 ● 地域の強みや魅力がどのようにレジリエントな社会に繋がるか考え、画用紙にまとめる。(①レジリエントな地域、②レジリエントな個人、③レジリエントな国) ● ワールドカフェ方式で共有する。 ● レジリエントな社会作りについて地元企業を例にイメージをもち「新潟巡検×SDGs」に繋げる。	● 株式会社 開成の循環型農業の例 ( <a href="https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokusan/re-cycle/h25_02/pdf/doc2_2.pdf">https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokusan/re-cycle/h25_02/pdf/doc2_2.pdf</a> )
4   9	【総合学習】 オンライン新潟巡検×SDGs [事前学習]	● 探求テーマをもとに、SDGs の視点で調べ学習を行い、疑問を明確にした上で、自分の言葉でオンライン新潟巡検の目的を語るができる。	● 班ごとに探求テーマを選択する。 ● インタビュー先の調べ学習を通して、SDGs との関連や探求テーマに関する疑問を明確にする。 ● 事前学習合同発表会の場において、他の班員にオンライン新潟巡検の目的を自分の言葉で語り、意見交換をする。	
10	【総合学習】 オンライン新潟巡検×SDGs [インタビュー活動本番]	● インタビュー活動を通して、SDGs を実践する方々から世界や地域の諸問題を解決するための取組や考え方を学ぶことで、「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を考える。	インタビュー活動を通して「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を考える。 <b>【各班の探求テーマ】</b> 「電気自動車を活用した地域 SDGs の取組とは?」「地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP!」「持続可能な社会づくりのための銀行の役割とは?」「SDGs×スーパーの取組とは?」「島の大自然や人の温かさをたっぷり詰め込んだゲストハウスの魅力とは?」「世界農業遺産に指定された地域が目指すものとは?」「新聞社×SDGs～「地方創生プラットフォーム SDGs にいがた」が目指すこと～」「SDGs×循環×地域の特産物「バナナ」とは?」「日本初!米を原料としたバイオマスプラスチックとは?」「SDGs 未来都市の取組とは?」「外国からの持続可能な原料調達と製紙業」「村上市で南国フルーツがとれる理由は?～地域資源を活かした循環型農業～」「地球や人に優しい消費のあり方とは?水・食・エネルギー×SDGs」「人と街と地球にやさしい家づくりとは?」「SDGs に本気で取り組むコーヒー店の魅力とは?」「テクノロジー×大学×SDGs で世界の課題解決へ!」「水辺からはじまる生態系ネットワーク」	
11   16	【総合学習】 オンライン新潟巡検×SDGs [事後学習]	● 新潟巡検での学びを整理しながら、「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を自分の言葉で表現し、自身の行動につなげるレポートを作成する。	● 新潟巡検での学びを文章記述し、振り返りレポートを作成する。(①考えたこと、興味をもったこと、もっと調べてみたいと思ったこと、②一番心に残ったこと、心に響いた一言、③SDGs との繋がり、持続可能な社会やレジリエントな社会づくりに大切なこと、④これから自分が周りの人と協力して取り組んでいきたいこと、⑤担当者の方へメッセージ) ● 振り返りレポート内容を元に礼状を作成する。 ● 右記の項目に沿ってまとめレポート作成する。	① 自分の問題意識、関心ごと、テーマを選んだ動機、等 ② インタビュー先の事業についてどんな取組をしているか。関連するSDGs ③ 質問に対する回答 ④ 新潟巡検で特に心に響いた言葉（担当者のメッセージ） ⑤ 持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと ⑥ 「持続可能でレジリエントな社会づくり」や「SDGs の達成」を目指して、自分が取り組みたいこと ⑦ 新潟巡検を終えた感想、読み手・聞き手へのコアメッセージ
17   26	【総合学習】 オンライン新潟巡検×SDGs [プレゼン大会]	● 新潟巡検での学びから「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を考え、他者貢献する	● レポートを使用し、4分間プレゼン大会の準備・練習を行う。 ● プレゼン大会（テーマの異なる6人グループで発表する。メンバーを変えて2回行う） ● 代表者プレゼン（学年の代表者8名のプレゼン）	

	ような論理立てたプレゼンを行う。	ンから学ぶ。) <ul style="list-style-type: none"> <li>● 阿賀町立三川中学校とワライン合同発表会</li> </ul>	
--	------------------	---------------------------------------------------------------------------------	--

7. 本時の展開 (1時間目)  
 本時のねらい:  
 ● 東日本大震災の被災者に思いを馳せることで、普段の日常が当たり前ではないこと、予測のつかない事態が起こりうる世界に生きていることに向き合う。  
 ● 国籍や住んでいる場所など関係なく、お互いに助け合うことの大切さに気づき、他者貢献・国際貢献をしようとする意欲をもつ。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女川中学校の俳句を読み、「誰が」「どんな状況で詠んだ俳句か」想像する。 「みあげれば がれきの上に こいのぼり」「がれきから やっと見つけた 父の写真」「震災に 負けてたまるか 女川町」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の呟きを板書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『みあげれば がれきの上に こいのぼり』山中勉(日本宇宙フォーラム)</li> </ul>
<b>展開</b> (30分)	<p><b>発問①</b>「どんな人が、いつ、どんな思いで書いた俳句だろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 写真をもとに震災の被害状況を振り返り、俳句を読んだ女川中学校の生徒の心情に思いを馳せる。</li> <li>● 震災後の世界中からの支援を知り、相互支援の在り方を考える。(パラグアイからの豆腐 100 万丁プロジェクトの紹介)【他者貢献、国際貢献への意欲】</li> </ul> <p><b>発問②</b>「自国や、自分の生活も大変な状況にある人もいるのに、なぜ支援してくれたのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国各地、そして世界の国々から俳句の下の句を紡ぐ取り組みが行われたことを知り、この「想いを紡ぐ取組」がどのような結果をもたらしたか、考える。【空間を超えて思いがつながる、共助の精神】</li> </ul> <p><b>発問③</b>「想いを紡いでいくことの意味を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年の教師海外研修で、パラグアイのラ・パス日本語学校を訪れた鈴木航太先生と玉腰朱里先生の授業を知る。</li> <li>● ラ・パス日本語学校の生徒が書いた感想を読み、どんな思いで書いたのかを考える。「(豆腐 100 万丁プロジェクトについて) 助けてくれてありがとうと思った」</li> </ul> <p><b>発問④</b>日本語学校の生徒が書いた『「助けてくれてありがとう」にはどんな思いが込められている？』</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の発言を拾いながら、関連するエピソードを紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 過年度参加者の高田裕行先生の経験談「福島県民でさえ、県外に避難する人が多かったのに多くの外国人がボランティアに来てくれた」</li> <li>② 2016年に教師海外研修でタイのクロントイラムを訪れたこと、そこで震災後行われた街頭募金についても紹介。</li> <li>③ 「日本が色々な国に支援したから」という発言を聞いて、モルデイブのスマトラ沖地震のときの恩返しの話をつけ足した。</li> <li>④ 鈴木航太先生と玉腰朱里先生からのメッセージを紹介</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福島民報(2011/5/19)パラグアイ移民栽培の大豆原料豆腐 100 万丁被災地へ</li> <li>● 2019年教師海外研修で撮影したパラグアイのラパス日本人学校での授業写真</li> </ul>
<b>まとめ</b> (15分)	<p><b>発問⑤</b>自然災害や新型コロナウイルス感染症などの諸問題がこれからも世界中で起こりうる状況の中で、「これから自分はどう生きていきたいか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「授業を通して考えたこと」を記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● より多くの生徒の声を拾い、板書する。</li> </ul>	



<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 予測のつかない事態が起こりうる世界に生きていることを認識し、それをふまえた上で、「今後の自分の生き方」を考えることができる。【ワークシートの記述発問⑤】</li> <li>● 国籍や住んでいる場所など関係なく、お互いに助け合うことの大切さに気づき、他者貢献・国際貢献をしようとする意欲をもつ。【ワークシートの記述発問②、感想】</li> </ul>	
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 過年度参加者からのメッセージ（1時間目 道徳授業）</li> </ul> <p>2016年度教師海外研修参加 高田裕行先生、2019年度教師海外研修参加 鈴木航太先生、玉腰朱里先生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オンライン新潟巡検×SDGsでお世話になった企業、団体、大学 様</li> </ul> <p>新潟国際情報大学 様、新潟スワンエナジー株式会社 様、第四銀行 様、原信ナルスオペレーションサービス株式会社 様、栗島ゲストハウス おむすびのいえ 様、トキとの共生をめざす米つくりを行う農業従事者、新潟日報社 様、シモダ産業株式会社 様、株式会社バイオマスレジ南魚沼 様、見附市（SDGs未来都市）様、北越コーポレーション株式会社 様、株式会社 開成 様、フェアトレード推進委員会 様、株式会社テクノシステム 様、株式会社ナレッジライフ 様、株式会社 鈴木コーヒー 様、長岡技術科学大学 様、水の駅「ビュー福島潟」様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オンライン合同発表会でお世話になった 阿賀町立三川中学校 中村太郎先生、1学年生徒の皆様</li> </ul>	
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>SDGs コーナーの設置</b></li> </ul> <p>教室近くのラウンジに、SDGsに関連する資料や書籍、JICA発行の資料等を置き、誰でも気軽に手に取れるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>廊下掲示物の充実</b></li> </ul> <p>担当する1学年廊下の掲示物を全て総合学習に関連するものを掲示している。学びの軌跡を掲示することで生徒の振り返りの機会になると共に、他学年の職員目にも触れるようにし横断的な教科指導に繋げてもらうためである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>国際理解教育プレゼンテーションへの参加</b></li> </ul> <p>有志生徒を募り、『食から考える『世界』と『あしもと』』、「竹のように…！」をテーマに2チームが出場した。9月～12月の間、生徒が主体となり、アフリカへの募金活動やフードドライブ、SDGsアクションの呼びかけなど全校生徒を巻き込んだ活動を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>授業実践データの共有</b></li> </ul> <p>2019年より、希望があった学校内外の職員・友人に、授業で使用したPPT、ワークシート、資料等のデータを共有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>校外での授業実践発表</b></li> </ul> <p>2020年11月15日 英語授業研究会・関東支部 第26回 秋季研究大会 実践発表  2020年11月19日 長岡市三島郡進路指導キャリア教育協議会研修会 実践発表  2021年2月2日 長岡市立大島中学校職員研修講師  2021年2月18日 長岡技術科学大学・長岡工業高等学校専門学校 SDGs 講演会 実践発表</p>	

【自己評価】

11. 苦勞した点	<p>『レジリエンス』をどのように生徒や学年部の職員にイメージ・定着させ、授業展開していくかが1番の課題で、手探りの中でのスタートだった。本時の道徳授業がレジリエンスの入り口になったことは生徒にとって理解しやすかったようで、次の授業では「防災」を視点にレジリエンスのイメージマップを作成する生徒の姿が見られた。それを3時間目に「国のレジリエンス」「地域のレジリエンス」「個人のレジリエンス」と発展させたかったが、時間も限られておりあまり深められずに終えてしまった。最後に行ったプレゼンの原稿を読むと、「持続可能でレジリエントな社会づくりのあり方」について、単元前半の内容との関連が薄まってしまったことから、「持続可能性」と「レジリエンス」を軸として単元を貫くことの難しさを感じた。</p>
12. 改善点	<p>「レジリエンス」を「竹のように強くしなやかであること」と生徒にイメージをもたせたが、「実際にそのような『国』『地域』『個人』とはどのような状態か」、「何が必要か」、議論する時間を設けるとよい。生徒だけだとアイデアが偏りがちなので、学校職員や地域の大人、新潟巡検の担当者等と議論すると、より考えの広がりがあり面白い。「レジリエンス」「持続可能性」は今後も探究活動の主軸として継続して取り扱っていく。</p>

